

コロナ禍の国際ビジネス環境をチャンスに変える：海外の日本人起業家

公立大学法人 都留文科大学 佐脇英志

報告要旨

(本報告は、全国大会発表のアセアンの研究を世界に展開したものである)

コロナ禍は世界を震撼させ、世界の企業の多くは減収減益となり、日本でも上場企業を始め、多くの企業減収減益見通しとなっている。日本のベンチャーの経営環境も、昨年 1-6 月のベンチャー企業の資金調達額は 1042 億円と、前年同期比で 47%減の大きな冷え込みとなった。

海外の日本人起業家達がおかれている経営環境はさらに悲惨である。空港封鎖のため主要顧客である外国人はゼロとなり、ロックダウンで手足も挽がれ、日本政府からの援助は得られず、外国企業ゆえにその国の支援金を得られることも稀である。

そこで本研究は、世界に出て行った日本人起業家が、どのようにコロナ禍を切り抜けて生き延びているかを分析する。報告者は、これまでの研究において、ASEAN の日本人起業家が素早いピボット(事業転換)でコロナ禍の危機を乗り越えていることを明らかにした。本研究では、研究対象を世界に広げるとともに、さらなる分析を行うものである。

本研究は、下記リサーチクエスチョンを明らかにする。

①世界各国に散らばった日本人起業家が、コロナ禍に遭遇し、どのような状況にあるのか？

②彼らは、ASEAN と同じように、ピボット戦略(事業転換)で切り抜けているのか？

③彼らは、どのようなピボット戦略を使っているのか (ピボット 10 類型) ？

研究方法として、海外の日本人起業家の研究が限定的であり、ピボット戦略に関する研究の蓄積も限定的であることから、本研究は探索的研究と位置付けられる。さらに、リサーチツールについては、本来なら対面インタビューで行うべきところであるが、コロナ禍のため Zoom とインタビューガイドを使った半構造化インタビューとメッセージャーなどの SNS を駆使して、質的 DATA を入手した。

発見事項は、コロナ禍にあって、日本人起業家にとって外地は内地と比べ物にならない厳しさを観察できる中、ピボット戦略を使って切り抜けている日本人起業家を観察できたことである。ケニアとドイツ等、数社の海外日本人起業家の事例を挙げる。

本研究は、海外の日本人起業家研究の新しい事例研究の積み上げと、一回の調査旅行では不可能な多国間の比較研究を、Zoom と SNS を駆使して行ったものである。研究方法論的にも斬新かつ新しい国際ビジネス研究の在り方を提起するものである。経営管理上のイン

アプリケーションとして、コロナ禍の中で多くの日本の大企業が有効な施策を打てず苦しんでいる中、異国の地で日本人起業家の小柄な企業がピボット戦略を駆使して成功している事例は、学ぶ点が多い。

海外で試行錯誤の末やっとの思いで事業を立ち上げ軌道に乗せた日本人起業家の多くが、海外のコロナ禍の厳しい経営環境下、断腸の思いでビジネスを中断し日本に帰っている。その中で、歯を食いしばってピボットを繰り返している日本人起業家達がいる。本研究では、日本からなかなか見えないコロナ禍における海外日本人起業家の実態を明らかにするものである。